

エコアクション21

環境経営レポート

取組期間：39期：2023年6月～2024年5月



有限会社石坂工業

作成日：2024年7月24日

目次

1. 組織の概要と対象範囲	1
2. 環境経営方針	3
3. 環境組織及び役割	4
4. 環境経営目標とその実績	5
5. 環境経営活動計画の結果及び評価、次年度の取組み	8
6. 法規制順守評価	9
7. 代表者による見直し、評価及び指示	9
8. 主な環境活動	10

1. 組織の概要と対象範囲

(1) 名称及び代表者

有限会社石坂工業

取締役 石坂 葉子

(2) 所在地

・本社 千葉県佐倉市江原 354-3

・資材置場 千葉県船橋市豊富町 1454-17

(3) 環境管理責任者及び担当者連絡先

・環境管理責任者 石坂 和彦

・連絡担当者 石坂 葉子

・連絡先 TEL: 043-485-8780

FAX: 043-484-4472

E-mail: t.ishizaka@feel.ocn.ne.jp

(4) 事業内容

水道施設工事業、管工事業、土木工事業、とび・土工工事業、舗装工事業

産業廃棄物収集運搬業 *自社運搬のみ

(5) 事業の規模

・法人設立年月日: 昭和 60 年 12 月 25 日

・資本金: 300 万円

・売上高: 390 百万円 (39 期 2023 年 6 月 1 日～2024 年 5 月 31 日)

・工事等件数: 61 件

・従業員 7 人

・延べ面積: 事務所床面積 83.6 m² 資材置場敷地面積 1800 m²

・事業年度: 6 月～5 月

(6) 対象範囲

・認証・登録事業者: 有限会社石坂工業

・対象事業所: 本社、資材置場

・事業活動: 水道施設工事業、管工事業、土木工事業、とび・土工工事業
舗装工事業

業として産業廃棄物収集運搬業は実施していないため活動範囲に含めていない。

(7) 許認可

1. 一般建設業許可証

許可番号： 千葉県知事 許可（般-3）第 27970 号
許可の有効期限： 平成 3 年 6 月 25 日～令和 8 年 6 月 24 日
建設業の種類： 土木工事業、とび・土工工事業、管工事、舗装工事、
塗装工事業、水道施設工事業

2. 産業廃棄物収集運搬業許可証

許可番号： 千葉県知事 第 012000010233 号
許可の年月日： 令和 5 年 11 月 6 日
許可の有効期限： 令和 10 年 10 月 25 日
事業の区分： 収集・運搬 （積替え・保管を除く）
産業廃棄物の種類：
ア 燃え殻 イ 廃プラスチック類 注 1) ウ 紙くず エ 木くず
オ 繊維くず カ ゴムくず キ 金属くず 注 2)
ク ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ケ がれき類 注 3)
注 1) 石綿含有産業廃棄物を含み、自動車等破砕物を除く
注 2) 自動車等破砕物を除く
注 3) 石綿含有産業廃棄物を除く
水銀使用製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等の収集運搬はできない。

3. 指定給水装置工事事業者

千葉県水道局、佐倉市、四街道市、富里市、八街市、印西市
成田市、白井市、習志野市、柏市、市川市、八千代市、酒々井町

4. 排水設備工事事業者

市川市、八千代市、柏市、船橋市、習志野市、鎌ヶ谷市、
白井市、四街道市、酒々井町、佐倉市、富里市、八街市、
印西市、成田市

(8) 保有車両の台数

0.1m ³ パワーショベル	3 台
0.15m ³ パワーショベル	1 台
0.2m ³ パワーショベル	1 台
0.4m ³ パワーショベル	2 台
2t ダンプ	6 台
3t ダンプ	4 台
4t ダンプ	1 台
ユニック	1 台
軽ワゴン	1 台
軽トラック	1 台
乗用車	1 台

2. 環境経営方針

環境経営方針

I. 環境理念

有限会社石坂工業は、管工事、水道施設工事で水を安全確実に届けるため環境に配慮した施工に努め、地球環境保全の重要性を認識して環境負荷の低減を目指し、省エネルギー活動を周知徹底させ二酸化炭素排出量の削減に努めながら継続可能な社会づくりと循環型社会形成に貢献します。

II. 行動方針

当社は、上記の環境理念を達成するために、自主的かつ積極的に以下の項目に取り組んでまいります。

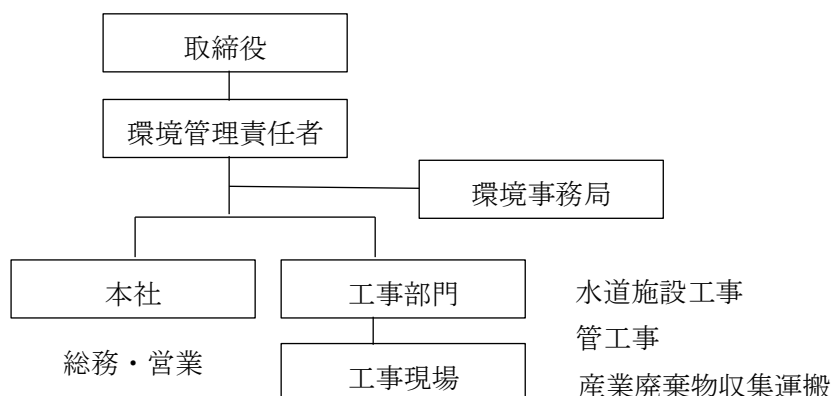
1. 適用される環境関連法令及び廃棄物に係る法令及び条例を順守します。
2. EA21 環境経営システムを導入し、環境経営活動レポートにて行った取組みを公表するとともに、評価と見直しを図ることで継続的な改善を努めてまいります。
3. 環境への重点的取組として下記の活動を取りくみます。
 - ① 省エネによる二酸化炭素排出量削減
 - ② 工事で発生する廃棄物の 3R 活動
 - ③ 水使用量の削減
 - ④ 工事の作業効率化推進
 - ⑤ 環境配慮工事の取組み
4. 従業員に対して環境経営方針の周知徹底を図ります。

制定日 2022 年 6 月 1 日

改訂日 2024 年 4 月 18 日

有限会社 石坂工業
取締役
石坂 葉子

3. 環境経営組織及び役割



取締役	環境経営システムに関するすべての責任と運用についての権限を持つ システム構築・運用及び管理に必要な資源を用意する 代表者による全体の評価と見直し及び指示を行う 環境管理責任者の任命 環境経営方針の策定、見直し及び従業員へ伝達を行う 環境経営目標、環境経営活動計画、環境経営レポートの承認
環境管理責任者	社長に代わりシステム構築・運用状況を監視し、社長に報告する 環境関連法規の最新情報収集、遵守確認 環境経営目標・環境経営活動計画を設定し、各部門の活動計画の確認と承認 問題点の是正・予防処置に対する指示と改善・見直しに関する処置を行う 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 文書・記録の作成、取りまとめ
環境事務局	環境管理責任者の補助 文書類の原案作成 環境活動の実績集計
部門責任者	環境経営目標、環境経営活動計画の実施及び達成状況報告 従業員に対する教育訓練の実施 必要な手順書の作成 緊急事態対応テスト訓練の実施及び記録 問題点の発見、是正・予防処置の実施 協力会社への環境配慮等の指示
従業員	環境経営方針、環境経営目標に基づき定められた活動計画の実施 法規制遵守

4. 環境経営目標とその実績

中長期環境経営目標

39 期～41 期の中長期環境経営目標を策定しました。

39 期から前年度実績値を基準値とするスライド方式に変更

2024 年 6 月 27 日作成

環境経営目標項目	基準年度 基準値	目標値		
		39 期	40 期	41 期
		12 月度から目標値 上方修正	実績値に対し 1 %削 減	実績値に対し 1 %削減
電力、燃料使用量に よる二酸化炭素排出 量の削減	累積実績値 37 期 45.031 Kg-CO ₂ /年 38 期 31.656 Kg-CO ₂ /年 39 期 44,765 Kg-CO ₂ /年	47,500 Kg-CO ₂ /年以下 <実測値> 44,765 Kg-CO ₂ /年	44,400 Kg-CO ₂ /年以下	43,850 Kg-CO ₂ /年以下
軽油使用量の削減 (工事現場)	累積実績値 37 期 10,985 ℓ/年 38 期 6,352 ℓ/年 39 期 10,691 ℓ/年	10,610 ℓ/年以下 <実績値> 10,691 ℓ/年	11,400 ℓ/年以下	11,300 ℓ/年以下
電力使用量の削減	累積実績値 37 期 24,124 kWh/年 38 期 20,447 kWh/年 39 期 22,842 kWh/年	25,375 kWh/年以下 <実績値> 22,842 kWh/年	22,600 kWh/年以下	22,400 kWh/年以下
水使用量の削減	累積実績値 37 期 467 m ³ /年 38 期 443 m ³ /年 39 期 422 m ³ /年	基準値の 1 %削減 438m ³ /年以下 <実績値> 422 m ³ /年	実績値の 1 %削減 418m ³ /年以下	実績値の 1 %削減 414m ³ /年以下
自社廃棄物排出量の 削減	実施 ・OA 用紙使用量削減活動 ・分別・リサイクルの 実施	実施 ・OA 用紙使用量 削減活動 ・分別・リサイク ルの実施	実施 ・OA 用紙使用量 削減活動 ・分別・リサイク ルの実施	実施
工事で発生する廃棄 物の削減・分別活動	実施 ・分別活動実施 ・分別容器用意 ・分別教育実施	実施 ・分別活動実施 ・分別容器用意 ・分別教育実施	実施 ・分別活動実施 ・分別容器用意 ・分別教育実施	実施 ・分別活動実施 ・分別容器用意 ・分別教育実施
収集運搬作業、重機作 業の作業効率改善 工事実施時の環境へ の配慮	実施 ・作業効率改善 ・騒音・振動低減、 ・粉塵飛散防止	実施 ・収集運搬作業・ 重機作業の作業 効率改善 ・低騒音型重機の 使用 ・騒音・振動低減 ・粉塵飛散防止 ・重機のアイド リングストップ	実施 ・収集運搬作業・ 重機作業の 作業効率改善 ・低騒音型重機の 使用 ・騒音・振動低減 ・粉塵飛散防止 ・重機のアイド リングストップ	実施 ・収集運搬作業・ 重機作業の 作業効率改善 ・低騒音型重機 の使用 ・騒音・振動低減 ・粉塵飛散防止 ・重機のアイド リングストップ

		・舗装切断時汚泥 ウォーター リサイクル工法 の使用 ・消音ブレードの 使用	・舗装切断時汚泥 ウォーター リサイクル工法 の使用 ・消音ブレードの 使用	・舗装切断時汚泥 ウォーター リサイクル工法 の使用 ・消音ブレードの 使用
--	--	---	---	---

2024 年 6 月 27 日に 39 期実績値と今後の見通しから、40 期の目標値を変更、

活動実施は、目標値ではなく具体的活動を記載した。

毎年の仕事量は仕事の内容で変動するため基準値は固定でなく 39 期から前年度実績値を基準値とする
スライド方式に変更

39 期の主な環境負荷

39 期 (2023 年 6 月～2024 年 5 月)

環境への負荷	単位	38 期	39 期
二酸化炭素排出量	Kg-CO ₂	31,656	44,765
電力使用量 事務所	kWh	19,868	21,764
電力使用量 資材置場	kWh	609	1,078
軽油使用量 工事現場	ℓ	6,352	11,691
ガソリン使用量 事務所	ℓ	0	0
ガソリン使用量 工事現場	ℓ	1,482.6	、799
一般廃棄物排出量	Kg	56	33
産業廃棄物排出量(工事から出る)	t	1,139	2,251
産業廃棄物収集運搬量	t	業として実績なし	業として実績なし
水使用量	m ³	443	422
太陽光発電量	kW	59,529	38,817

- ・購入電力の二酸化炭素排出係数は、令和 4 年 2 月 7 日公表

東京電力エナジーパートナー(株) 令和 2 年度実績 調整後排出係数メニュー C

0.443 kg-CO₂/kWh を使用。

- ・化学物質は使用していない。

- ・産業廃棄物排出量内訳：アスファルト及びコンクリート殻、路盤廃材、汚泥、廃プラスチック類

- ・産業廃棄物の処理

工事現場で発生した建設廃棄物等は、すべて自社運搬であり、業として受託した産業廃棄物は収集
運搬していない。

- ・二酸化炭素排出量は、38 期 31,656 kg-CO₂/年に対し、39 期 44,765 kg-CO₂/年となり

42%増加した。

38 期は元請工事が減少したため、下請工事で軽油使用負担がなくなり軽油使用量が減少した。

そのため二酸化炭素排出量が減少した。

今後も工事現場での軽油使用量の削減に努め、二酸化炭素排出量の削減を図る。

環境経営目標とその実績及び評価

39 期：2023 年 6 月～2024 年 5 月の環境経営目標とその実績及び評価

39 期 環境経営目標・環境経営計画／進捗管理表より

環境経営目標項目	基準年度 基準値	39 期目標値	39 期実績値	評価
電力、燃料使用量による二酸化炭素排出量の削減	累積実績値 31,656 kg-CO ₂ /年 12 月度から今後の見通しから上方修正した。	47,500 kg-CO ₂ / 年 以下	44,765 kg-CO ₂ /年 達成度 106 %	○
軽油使用量の削減	累積実績値 6,352 ℓ/年 12 月度から今後の見通しから上方修正した。	10,610 ℓ / 年 以下	11,691 ℓ/年 達成率 90 %	×
電力使用量の削減	累積実績値 20,447 kWh/年 12 月度から今後の見通しから上方修正した。	25,375 kWh/年 以下	22,842 kWh/年 達成度 110%	○
水使用量の削減	38 期累積実績値に対し 1 %削減 438 m ³ /年	438 m ³ /年 以下	422 m ³ /年 達成度 104%	○
自社廃棄物排出量の削減	0A 用紙使用量削減活動 分別・リサイクル実施	実施 ・ 0A 用紙使用量削減 ・ 分別・リサイクルの実施	実施 ・ 再資源化率 100% 達成 ・ 分別実施	○
工事で発生する廃棄物の 3R 活動	分別実施 分別容器の用意 分別教育の実施	実施 ・ 分別活動実施 ・ 分別容器用意 ・ 分別教育実施	実施 ・ 分別実施。 ・ 廃棄物別に容器を準備した	○
収集運搬作業、重機作業の効率化推進	収集運搬作業、重機作業の作業効率改善 低騒音型重機の使用 騒音・振動、粉塵の飛散防止	実施 ・ 収集運搬作業・作業効率改善 ・ 低騒音型重機の使用 ・ 騒音・振動低減、・粉塵飛散防止 ・ 重機のアイドリングストップ ・ 舗装切断時汚泥ウォーターリサイクル工法の使用 ・ 消音ブレードの使用	実施 ・ 収集運搬作業・作業効率改善 ・ 低騒音型重機の使用 ・ 騒音・振動低減、・粉塵飛散防止 ・ 重機のアイドリングストップ ・ 舗装切断時汚泥ウォーターリサイクル工法の使用 ・ 消音ブレードの使用	○

評価記号： ○達成 ×未達成

1. 化学物質（PRTR 制度対象製品）は使用していないので、環境経営目標は設定していない。
2. 事務所からの廃棄物排出量は 33 kg／年と少量のため、環境経営目標は設定せず、OA 用紙使用量削減活動、分別、リサイクルを実施した。
3. 工事で発生する産業廃棄物(建設廃棄物)は、工事内容により発生量変動するため、環境経営目標として数値目標は設定していない。数値目標でなく環境活動目標として「工事で発生する廃棄物の 3 R 活動」とし、廃棄物削減のため分別活動を実施したかどうかで評価することとした。
4. 12 月からの工事のため軽油、電力使用量が当初の見通しより増加するため、12 月度目標値から今後の見通しを考慮して二酸化炭素排出量、軽油使用量、電力使用量の年度末年間累積目標値を修正した。

5. 環境経営活動計画の結果及び評価、次年度の取組み

39 期（2023 年 6 月～2024 年 5 月）の環境経営活動計画結果の評価及び次年度の取組み

評価： ◎よくできた ○できた △あまりできなかった ×全くできなかった

環境経営活動計画	評価	取組みの結果	次年度の取組み
(1) 二酸化炭素排出量の削減		目標値達成度 106 %	継続 軽油使用量の削減を図る。
① 燃料、電力使用量の削減	○		
(2) 軽油使用量の削減		目標値達成度 90 %	継続 作業効率の改善により軽油使用量削減を図る。 エコドライブ、アイドリングストップの徹底は継続する。
① 収集運搬車両のエコドライブの徹底	◎	エコドライブ、アイドリングストップは定着。 前年度に比べ 12 月からの工事ため、見通し通り軽油使用量が増加した。 ただし、累積軽油使用量の増加が見通しから作成した修正目標値が低すぎたため年度末累積目標値が未達成になった。	
② 収集運搬車両、重機のアイドリングストップの徹底	◎		
③ 車両定期点検の徹底	○		
④ 作業効率の向上（走行ルート見直し等）	◎		
⑤ 省エネ教育実施（朝礼等）	○		
(3) 電力使用量の削減		目標値達成度 110 %	継続 今後も消灯徹底、エアコン適正温度運転の徹底は継続する。
① 事務所における消灯徹底	○	消灯、エアコン適正温度運転の徹底は定着。	
② 冷暖房時の適正温度運転の徹底	○		
③ 残業時間の短縮	○		
③ 節電教育実施（朝礼等）	○		
(4) 事務所・作業現場からの廃棄物排出量の削減		分別実施	継続 今後も OA 用紙使用量削減に努める。
① 分別・リサイクルの実施	○	分別・リサイクル実施	
② コピー用紙再利用の徹底（使用量の削減）	○	リセットによるミスコピー削減。裏紙使用	
(5) 水使用量の削減		目標値達成率 104 %	継続 今後も手洗いや、散水の節約を継続する。
① 従業員に対する節水教育実施	○	手洗い時の節水徹底してきた。 漏水チェック OK	
② 洗車水・散水（道路清掃）の節約	○		
③ 水道配管の漏洩点検（請求書確認）	○		

(6) 環境保全活動		清掃活動、分別活動実施	今後も継続する。
①事務所、工事現場、敷地回りの清掃活動実施	○		
②3R活動実施	○		
③分別活動実施	○		
④分別容器の用意	○		
⑤分別教育実施	○		
(7) 作業時の環境配慮		環境クレームなし。 建設廃棄物の再資源化を 分別実施等で推進。 低騒音型重機使用 アドリングストップ実施	今後も継続する。
①収集運搬作業、重機作業の作業効率改善	○		
②低騒音型重機の使用	○		
③騒音、振動、粉じん飛散防止	○		
④重機のアイドリングストップ	○		
⑤舗装切断時の汚泥ウォーターリサイクル 工法の採用	○		
⑥消音ブレード使用	○		

6. 法規制遵守評価

(1) 下記の環境関連法規等の要求事項、規制内容等を法規制等一覧表に取りまとめ確認・評価をしました。

- ①建設業法 ②消防法 ③水道法 ④下水道条例 ⑤廃棄物処理法
⑥自動車NOx・PM法 ⑦千葉県環境保全条例 ⑧オフロード法 ⑨騒音規制法
⑩振動規制法 ⑪浄化槽法 ⑫道路交通法 ⑬道路法 ⑭労働安全施行規則
⑮家電リサイクル法 ⑯小型家電リサイクル法 ⑰自動車リサイクル法
⑱建設リサイクル法 ⑲フロン排出抑制法

(2) 2024年5月31日に遵守状況の確認を行いました。違反・逸脱はありませんでした。
また、関係当局により違反などの指摘、訴訟は3年間ありません。

7. 代表者による全体の評価、見直し及び指示

2024年6月27日に代表者による全体の評価を行い、見直しと指示がされた。

全体の評価

- ・環境経営システムを構築し、運用を始めたが特に問題は見られない。
引き続き環境負荷の低減に努めること。
- ・39期は、軽油使用量削減目標値を除き各目標値は達成。
40期の環境経営目標はそのまま継続する。
- ・環境経営目標値作成の際に、毎年実績値が変動するため基準値を3年間固定ではなく
前年度実績値を基準値とするスライド方式にすることは了承する。
- ・作業効率改善で削減目標を達成する様従業員一同一丸となって努力すること。

指示事項

環境方針	変更の必要性 あり ☐ なし ☒
環境目標	変更の必要性 あり ☒ なし ☐ 39 期の実績値に基づき 40 期の目標値、達成手順を検討すること。
環境活動計画	変更の必要性 あり ☐ なし ☒
環境経営システム 実施体制	変更の必要性 あり ☐ なし ☒

見直し内容・指示事項の周知・対応

環境管理責任者は、環境会議で周知し、指示事項対し環境会議で審議し対応を決定すること。

8. 主な環境活動

1. 資材置場近隣の緑化 NPO 団体への寄付。
2. 工事現場で毎日付近のごみ拾い、安全パトロール実施。
3. 現場での分別活動実施。



資材置場の廃棄物の分別活動



資材置場に金属くず分別容器



NPO 団体へ桜の木を寄贈



環境啓発の工事看板